

J A 自己改革推進レポートについて

令和 3 年 9 月 2 7 日
J A 鳥 取 県 中 央 会

1. J A 自己改革実践状況

(1) J A 鳥取いなばの取り組み

① 広域果実選果場開所式

J A 鳥取いなばは 8 月 2 2 日、露地栽培の梨「二十世紀」の出荷を開始した。八頭町にある広域果実選果場で開所式を開き、関係者約 1 6 0 人が梨シーズンの到来を祝った。

台風 9 号の影響と長雨で生育への影響が懸念されたが、生産者の努力により順調に進み、同選果場では、「二十世紀」を 5 万 2 千箱（1 箱 1 0 ㎏）出荷し、販売金額は 2 億 5 千万円を計画して

いる。関西市場を中心として、県内市場や直売所、進物などに出荷し、有利販売に取り組む。



② 福部未来学園らっきょう植え付け体験

鳥取市福部町の福部未来学園 6 年生 1 8 人が 8 月 2 6 日、同町海士で農水省の地理的表示（G I）保護制度に登録されている特産「鳥取砂丘らっきょう」の植え付けを体験した。

体験会では J A 鳥取いなば福部支店の職員が種らっきょうを植え付けるポイントを説明し、児童は種球約 1 0 0 ㎏を植え付けた。



③ J A グリーン 2 3 周年創業祭

J A 鳥取いなばは 8 月 2 8 日、資材館と農産物直売所「愛菜館」がある J A グリーン千代水店の大創業祭を開いた。8 月で創業 2 3 周年を迎え、より一層地元にも愛される店作りを行う。

生産者で組織する、同 J A 愛菜館運営協議会の田中会長は「多くの方に協力・協賛をいただき、2 年ぶりに開催できたことに感謝している。今後も来店者に喜んでもらえる商品を提供し、地域にも愛される店舗作りに励みたい」と話した。



④ はとむぎ茶リニューアル

J A鳥取いなばは、地元産はとむぎを使ったJ Aブランド「とっりののはとむぎ茶」のペットボトルのサイズを350㍗から500㍗にリニューアルし発売した。

特産化を目指すはとむぎの消費拡大向け、手軽に飲めるペットボトル飲料として同商品を開発し、2011年8月から販売している。今回、消費者の需要に応え大容量にした。

同商品は、同J A各支店や農産物直売所、ネットショップで販売するほか、J A鳥取いなばグループの(株)トスク本店や行政関連の施設などでも販売している。



(2) J A鳥取中央の取り組み

① 農畜産物引換券、200食のカレーに

J A鳥取中央は7月20日、ほくほくプラザ（北栄人権文化センター）へ農畜産物引換券を進呈した。

この引換券は、7月29日に予定していた地域の子どもたちが人権学習や夏休みの宿題に取り組み、食事を楽しむイベント「ほくほく食堂」の食材調達に使われる予定だった。しかし、コロナ感染拡大に伴い開催が中止となったことから、食材を無駄にしないため、8月11日、シダックスグループが運営する同町の放課後児童クラブ「北条なかよし学級」と「大栄こども学級」へ、合計200食のカレーとなって届けられた。子ども達からは、「普段はお弁当だから楽しみにしていた。カレーのウインナーがおいしかった」と好評だった。



② 持続可能な開発目標（SDGs）と食品ロスなどについて学ぶ 農業生産者と消費者が交流

J A鳥取中央は7月29日、本所にて農業生産者と消費者の交流会を初めて開いた。

同J A女性会会員や農業生産者、消費者団体会員、J A関係者約40人が参加し、グループワークを通じて、食品ロスなどの持続可能な開発目標（SDGs）について知識を深めた。

生産者の中原さんは、「野菜を出荷する際、少しでもキズや虫食いがあると、消費者の購買意欲が下がり、売れ残りが発生し破棄している」と現状を紹介した。



同JA生活部の中林部長は、「JAは、SDGsの達成に貢献できるように総合事業に取り組んでいる。今後も継続的な交流を通じて、利用者や地域の方に農業や健康について理解を深めてもらえるような活動を積極的に取り組む」と意気込みを話した。

③ JA中央営農センターが「秋冬ブロッコリー定植指導会」を実施

三朝町とJA中央営農センターは8月25日、三朝町では初となる「秋冬ブロッコリーの定植指導会」を行い、新規ブロッコリー生産者、行政、JA関係者約20人が参加した。

定植指導会は地域の気候を考慮した栽培方法や品種の選定などもかねた実証実験として行われ、今後の栽培指導はJAと普及所職員が担当する。中央営農センターの営農指導員が定植機の使用方法や作業の際の注意点を説明したあと、新規生産者がブロッコリーの苗を定植した。12月の収穫を予定している。



参加者は「これからもっと生産者が増え、ブロッコリーが三朝町の新たな特産品になるよう頑張りたい」と話した。三朝町では特産物振興加速化プロジェクトの一環として新規作物への取り組みを支援しており、三朝町の新たな特産品とするべく、今年度は6人の生産者が計48.4アールの面積でブロッコリーの栽培に取り組む。なお、湯梨浜町においても同計画が進められている。

(3) JA鳥取西部の取り組み

① 夏ネギ販売。市場、産地一丸となって取り組む

7月の豪雨による畦崩れ等の被害を受け、8月5日に米子市のJA本所で夏ネギ緊急販売対策会議を開いた。県外市場やJA全農とっとり等とリモートでつなぎ、販売の情勢や産地の状況等を報告し、意見を交わした。

会議では、市場や産地が販売動向や出荷予測などの情報共有を行い、一丸となって販売に取り組むことを申し合わせた。



② JA-SSがLINE公式アカウント開設

(株)鳥取西部ジェイエイサービスの5つのスタンド、五千石SS、西伯SS、中山SS、中浜SS、日野SSは、スマートフォンアプリ「LINE(ライン)」の公式アカウントを開設した。

各SSの店頭にはポスターやPOPを掲示し、2次元バーコードを使った「友だち」登録を呼びかけている。登録すると、ガソリンの価格情報やキャンペーン情報、割引クーポンなどを受け取ることができる。



③ 草刈の省力化・効率化を目指す ラジコン草刈機実演会

8月31日、日野郡江府町で夏場の草刈作業の省力化・効率化を目的としたラジコン草刈機実演会を開いた。

実演会では、最大傾斜45度で作業ができるエンジンとモーターのハイブリッド草刈機と最大傾斜40度のリモコン式自走草刈機の2台を実演した。コントローラーで操作するため、操縦者が斜面に立つことなく、安定した場所から安全に作業できることが特徴である。



(4) JA全農とっりの取り組み

エフエム東京管内で放送する6番組で、「鳥取県産新甘泉梨」をPR

エフエム東京管内6番組のパーソナリティに鳥取県産梨「新甘泉」の紹介とあわせ、試食した感想をコメントいただき全国に鳥取の“おいしい”を発信した。また、各番組のTwitterアカウントおよび本会「全農広報部 食農応援」アカウントで「新甘泉」のPR活動を展開した。

番組の中では、リスナー6名に「新甘泉」をプレゼントする企画を実施した。



(5) JA鳥取信連の取り組み

わくわくよりぞうポイントキャンペーン第1期当選者決定!!

“わくわくよりぞうポイントキャンペーン”の第1期抽選会が7月20日、3JAの本所（店）で実施された。

第1期の応募数は、JA鳥取いなば729枚、JA鳥取中央732枚、JA鳥取西部1,037枚の合計2,498枚と昨年を450枚上回る申込書が集まった。

第2期も、当選された方の喜びの声をセールストークの中で紹介しながら、引続きキャンペーンを盛り上げていく。

《JA鳥取中央本所 抽選会場》



「コロナの感染拡大や全国各地で起きている大雨災害などの暗い話題が多い中、当選された方には明るい話題として接していただき、JAファンの拡大に繋げていただきたい。」(蔵増専務)



(6) JA 共済連鳥取の取り組み

「交通安全啓発用品」を鳥取県交通対策協議会へ贈呈

秋の全国交通安全運動 9月21日～30日に先がけて9月8日に鳥取県庁において「反射材付きトートバック」4千個を鳥取県交通対策協議会（会長：平井伸治知事）へ贈呈した。



当日の贈呈式では、JA 共済連鳥取の森山本部長が「秋の全国交通安全運動にあわせて、交通事故未然防止に役立てていただきたい。」と挨拶した後、同協議会副会長の亀井一賀副知事へ目録の贈呈を行った。贈呈したトートバックは、各市町村を通じて交通安全運動期間に地域住民へ配布される。

JA 共済連鳥取では、平成22年から交通事故撲滅を目指す活動の一環として、同協議会を通じて学生や高齢者等へ交通安全啓発用品を贈呈し、交通事故の未然防止に取り組んでいる。




目録を亀井副知事（右）に贈る森山本部長


夜間の歩行には反射材を



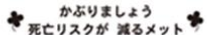
反射材付きトートバック



夜間の歩行には反射材を

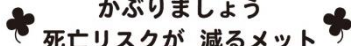


かぶりましょう
死亡リスクが 減るメット



鳥取県交通安全川柳
最優秀作品

かぶりましょう
死亡リスクが 減るメット



鳥取県交通安全川柳
最優秀作品

表面にはクローバー高輝度反射材が付いており、夕暮れ時や夜間のお買い物も安心です。

裏面には自転車運転中のヘルメット着用啓発を題名にした鳥取県交通安全川柳の最優秀作品がPRされています。